



SAKUSHIN GAKUIN  
UNIVERSITY

# 作新学院大学

## 平成29年度

## 教員免許状更新講習

本学では、平成29年度は、必修1講習、選択必修3講習、選択7講習を開設します。必修講習では、例年通り受講する先生方が実状を語り合える時間を設けました。各講習を通して幼児・児童・生徒への理解が深まるとともに、教育実践に向けての新たな希望が生まれることを期待しています。ご参加をお待ちしています。

受講対象者	現職教員等で、生年月日が次のいずれかに該当する方 昭和37年4月2日～昭和39年4月1日 昭和47年4月2日～昭和49年4月1日 昭和57年4月2日～昭和59年4月1日
講習・定員	必修講習1講習：120名 選択必修講習3講習：40～50名(講習により異なる) 選択講習7講習：50～60名(講習により異なる)
応募期間	平成29年4月1日(土)～4月30日(日)
講習日	必修講習：平成29年7月29日(土) 選択必修講習：平成29年8月1日(火)・5日(土) 選択講習：平成29年8月2日(水)～4日(金)
受講料	6,000円(6時間)
講習会場	作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部(清原キャンパス)

### <更新講習問い合わせ先>

028-670-6447

(3月～4月末)

平日 9:00～18:00

\*上記以外の期間は右記大学事務局受付

平日 9:00～16:00

教員免許状更新講習事務局

〒321-3295

栃木県宇都宮市竹下町908

作新学院大学

TEL:028-667-7111(代表)

FAX:028-667-7110

Email:koushin@sakushin-u.ac.jp

URL: <http://www.sakushin-u.ac.jp/>

## ■講習開設にあたって

### <教員免許状更新制とは>

平成 21 年度に施行された教員免許状更新制度により、平成 21 年 3 月 31 日以前に教員免許状を授与されて、教員(教諭、常勤講師、非常勤講師)として教壇に立っておられる方は、原則として定められた期間内に教員免許状更新講習を受講して免許を更新することが義務づけられています。昭和 37 年度(4 月 2 日～翌年の 4 月 1 日)生まれを最高齢として、同 47 年度生まれ、同 57 年度生まれの方は、平成 30 年 3 月 31 日までに、計 30 時間の更新講習を受講のうえ教員免許状更新の手続きをしなければなりません。同様に昭和 38 年度、同 48 年度、同 58 年度生まれの方は、平成 31 年 3 月 31 日までに、講習を受講のうえ同様の手続きが必要になります。平成 29 年度の講習はこれらの教員を受講対象として開催されます。

更新講習の受講は、必修講習 6 時間以上、選択必修講習 6 時間以上、選択講習 18 時間以上とされています。必修講習では、基本的に「教育の最新事情」等にかかわる内容が、選択必修講習では「英語」、「道德」、「教育相談」等の内容が、選択講習では「教科指導や生徒指導」等にかかわる内容が扱われることになっています。

### <作新学院大学では>

本学では、平成 20 年に下記の「教員免許状更新講習に向けた作新学院大学の基本姿勢」を定め、教育現場で日々奮闘されている先生方との講習を通じた交流を促進して、大学の研究機関としての質を高めていくことを確認しました。以後、毎年、7～8 月に必修講習と選択講習を行ってきています。平成 28 年度は必修 1 講習、選択必修 3 講習、選択を 6 講習開設し、定員を上回る受講生にご参集いただき、好評のうちに終了することができました。

### <平成 29 年度の講習>

平成 29 年度は、必修 1 講習(1 日 6 時間)、選択必修 3 講習(いずれも 1 日 6 時間)、選択 7 講習(いずれも 1 日 6 時間)を開設します。各講習を通して幼児・児童・生徒への理解が深まるとともに、教育実践に向けての新たな希望が生まれることを期待しています。ご参加をお待ちしています。

本学で 30 時間の講習を受講することも、あるいは必修講習だけ、選択必修講習だけ、選択 1 講習だけ受講することも可能です。どうぞ積極的に受講してください。

義務づけられた講習ではありますが、先生方が講習を通してリフレッシュされ、活力を得られますよう、精一杯努力いたします。

#### 教員免許状更新講習に向けた作新学院大学の基本姿勢

2008年7月23日 教員免許状更新講習実施委員会

1. 大学という研究機関で行われる講習であることを重視し、最新の研究成果を伝えることに加えて、研究のおもしろさや醍醐味の世界に受講生をいざなう講習にしていく。また、本講習を契機として教育現場との研究交流を展望していく。
2. 現場で要求される多様な領域の講習を提供できるようにしていく。講座の中身については、教育の現状や問題点を踏まえつつ本質的な探究の視点を盛り込むようにする。
3. 方法としては、講義だけでなく、可能な限り演習も交えて、受講生に何らかのかたちで発表や表現の機会を提供するものとしていく。
4. 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に在職する教員の受講の便を考慮して、夏休み中に講習を実施する。具体的には8月中の開催とする。
5. 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員の講座に対する意向を踏まえ、さらに受講生どうしの交流や学校間連携を促す講習とする。教育は基本的に文化の伝達であるという特性を踏まえて、大学は最新の研究成果を提供できるよう研究機関としての質を高めていくようにする。
6. 講習実施にあたっては全学的なサポート体制で臨む。

(2016 年 1 月改訂)

## 【必修講習】

### 学校と子どもをめぐる教育の最新事情と発達の保障・支援の方法（6時間）

本講習は、現代の教育政策や社会事情など学校教育や幼児教育をめぐる最新事情、授業づくりや幼児教育の活動（遊び）づくりの要点、幼児・児童・生徒指導上の課題、近年とみにその必要性が指摘されてきている発達障害の特色とそれぞれに応じた適切な指導法、そして、教育現場で求められるカウンセリング・マインドといった事柄を内容とする。受講生各自がそれぞれの教育実践に即して深く理解できるように演習も取り入れる。

講習日時	平成29年7月29日（土） 9：20～16：50		
定員	120名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員		
講師	<small>こばやし ちえこ いたう あつひろ にしたに けんじ のむら かつひこ</small> 小林 千枝子、伊藤 敦広、西谷 健次、野村 勝彦		
内容／講師	<p>午前の部（第1部）：小中高特教員と幼稚園教員とで教室が分かれます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中高特教員：教育政策の動向と学校教育の原理原則／小林 千枝子</li> <li>○幼稚園教員：教育政策の動向と幼児教育の原理原則／伊藤 敦広</li> </ul> <p>午前の部（第2部）：全校種</p> <p style="text-align: center;">幼児児童生徒の視点からの教育相談のあり方／西谷 健次</p> <p style="text-align: center;">特別支援教育の現状と課題／野村 勝彦</p> <p>午後の部</p> <p>子どもの学びと発達を保障する教師と保護者、そして地域社会との連携へ／小林 千枝子 演習／小林 千枝子、伊藤 敦広、西谷 健次、野村 勝彦</p> <p>午前中は、教育・保育政策の最新動向を踏まえて、授業づくりや生徒指導、幼児教育の実践において、子どもたちにどう対応し、何に留意すべきかを、基礎・基本に立って、理論的・実践的に考えていきます。続いて、近年とみにその必要性が指摘されてきている、教育相談と特別支援教育について、概説します。</p> <p>教育・保育の現実には、地域によって、学校・園によって、さらには学級・クラスによっても違ってきます。そうした現実即して深く考えられるよう、午後の時間には講義の後に教室を移動して、グループに分かれて意見交換をします。その後、もとの大教室に戻って、グループ別の議論をふりかえります。最後に、各講師が現状や課題、講習の成果などをコメントします。</p>		

## 【選択必修講習①】

### 基礎から学べる道徳教育の理論と授業実践（6時間）

この講習では、まず学校における道徳教育の目的や意義などについて考え、その上で教科としての道徳の授業をどのように実践していくかについて基本的な内容から具体的に考えていきます。特に、児童・生徒が、道徳的価値をどこまでも問いつづけながら、興味関心を持って楽しく学べる道徳授業のさまざまな工夫（ねらい、発問、言語活動、評価など）について具体的な展開事例を紹介し、またワークショップを取り入れながら受講生とともに検討していきます。

講習日時	平成29年8月1日（火） 9：20～16：50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	小学校、中学校、特別支援学校の教員		
講師	わたなべ ひろし 渡邊 弘		
内容	<p>昭和33年に特設された「道徳の時間」が「特別の教科道徳」（仮称）として教科となり、学習指導要領も改訂され、今後これまで以上に学校における道徳教育が重視されてくると考えられます。こうした動向を踏まえながら、この講習では、次の6点を中心に進めていきます。第1は、道徳の教科化の特徴と課題、またそもそも「道徳」を教えるとはどういうことか、その意義とは何かなどについて考察します。第2は、道徳の授業を行う場合の最も基礎・基本となる点（教材、授業の展開、発問、板書など）について考察します。第3は、道徳の授業と他教科・領域との連携を通じた工夫について考察します。第4は、体験活動・言語活動を生かした道徳授業の工夫について考察します。第5は、さまざまな道徳学習方法論（「私たちの道徳」の利用法、ゲストティーチャ、役割演技など）について考察します。第6は、以上のことを踏まえて、具体的な教材を提示し、1グループ5名程度に分かれて授業の展開を実際に作成し、発表してもらい、最終的に全体で検討していきます。</p>		

## 【選択必修講習②】

### 教育相談（6時間）

本講習では、講義と実習を通して、いじめ・不登校の現状と対応のポイントについて理解を深めるとともに、実践的な相談技術の向上をはかる。現状については、統計資料等に基づいて、学校種ごとの特徴と対応のポイントを説明していく。実習では、基本となる傾聴技法と、より実践的な解決指向型の相談技法（なぜそのような問題が起きているのかという原因追究の視点ではなく、どのように問題が維持・存続しているのかという視点）を扱う。

講習日時	平成29年8月5日（土） 9：20～16：50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	小学校、中学校、高等学校の教員		
講師	にしに けんじ、こづか たかひろ 西谷 健次、狐塚 貴博		
内容／講師	<p>この講習では、初めに子どもの問題行動の現状を統計資料に基づきながら概説し、その背景について考察していく。小学校、中学校、高等学校では、必要とされる具体的な対応方法に違いはあるが、教育相談として求められる視点は共通している。背景の理解を通して、教育相談の基本に立ち返っていただきたいと考えている。次に、ロールプレイを通して、相談技法の基本を再確認していただく。日常の教育活動の中で相談技法は活用されているだろうが、往々にして、「自己流のクセ」がついてしまっているものである。今一度、相談技法の基本に立ち返っていただき、「自己流のクセ」を矯正していただけたらと考えている。／西谷健次</p> <p>この講習では小学校・中学校・高等学校教員を対象に、子どもが呈するさまざまな問題に対してどのような視点が必要かを示した上で、教育相談の具体的な進め方や方法を検討する。その際、臨床心理学の援助モデルを手掛かりに、問題の原因を追求する思考から離れ、問題の維持と存続、そして援助対象となる子どもや保護者の持つ資源を生かし、解決につなげる方法を説明する。受講者が具体的にイメージできるよう、ワークやディスカッションも取り入れて進めていく。／狐塚貴博</p>		

### 【選択必修講習③】

#### 子どもとともに作る楽しい英語の授業（6時間）

本講習は、小学校での「外国語活動」等の授業において、子どもたちが英語に興味を持てるような授業をつくり、教師が自信を持って英語を教えられるようになることを目的とする。内容は次の5つである。①授業で使える英語ゲームの紹介およびワークショップ、②レッスンプランニング、③ALT との関係作りと ALT 活用の仕方、④英語の教え方 Q&A：受講者の疑問へのアドバイス、⑤授業体験：年間指導計画と具体的授業内容。教師自身が英語を楽しめる講習としたい。

講習日時	平成29年8月5日（土） 9：20～16：50		
定員	40名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	幼稚園、小学校の教員		
講師	クイン・マシュー、スミス・クリス		
内容／講師	<p>※講習は原則として英語で行います。ただし、講師は日本語に堪能ですので、必要に応じて日本語を用いることができます。</p> <p>※受講者数により2クラスに分けて行います。</p> <p>小中学校の英語の授業で取り入れられているゲームを紹介しながら、ゲームを用いる重要性や効果を説明していきます。また、ALTから寄せられたアンケートを基に、ALTとの関係づくりを考えていきます。講習では、講義だけでなく、ゲームを作って発表、レッスンのプランニングをするなどのグループでの演習も行います。／クイン・マシュー</p> <p>英語を教える時の問題についてグループで話し合い、発表を行います。そして、全員で問題についての解決方法を考えていきます。また、各自の英語力を上達させるために、実際に小学校の英語カリキュラムを体験してもらい、英語の学習方法や上達のコツを伝授します。</p> ／スミス・クリス		

## 【選択講習①】

教育メンタルスキルズトレーニング（6時間）			
<p>学校教育をはじめ、多様な分野で活用されているライフスキルの向上に役立つメンタルスキルズトレーニングについて、実技やグループワークを中心に講習する。教員のメンタルヘルスに役立ち、児童・生徒の学習や教育をめぐる様々な問題に対して、柔軟に対応できる手がかりを得られるようにする。</p>			
講習日時	平成29年8月2日（水） 9：20～16：50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員		
講師	かさはら あきら 笠原 彰		
内容	<p>スポーツ心理学とは、スポーツ・運動・身体活動におけるパフォーマンスや参加によって影響する、影響を与える行動要因の研究です。また日常生活を向上させる知識の応用です。</p> <p>スポーツ心理学を基盤としたメンタルスキルズトレーニングという言葉は、個人のメンタル、身体行動などをコントロールしたり、変化させることを目的とした心理学的テクニックに対して使われます。プログラム化されたトレーニングによって、精神力は身体的強さと同じようにトレーニングできるという考え方を基本としています。つまり心理学のテクニックを使い、プログラム化されたトレーニングをすることで、メンタル面を強化することを目的としています。心理学的なテクニックとは、心理学の研究で、有効性が確認された科学的な方法です。</p> <p>本講習では、〔1〕自己分析、気づき〔2〕理想的心理状態〔3〕セルフトーク〔4〕動機づけ〔5〕覚醒水準の調整〔6〕イメージ〔7〕集中〔8〕自信〔9〕心理的準備〔10〕コミュニケーションスキルについて、実技やグループワークを中心に講習します。</p>		

## 【選択講習②】

子どもと楽しむ音楽（6時間）			
<p>子どもの目線で捉えた音楽がどのようなものであるかを考察し、指導者と子どもの双方が楽しめる新たな音楽活動の可能性を探ります。主に、幼稚園・小学校で扱う音楽教材を用いて、歌唱や楽器演奏等の演習を行います。</p>			
講習日時	平成29年8月2日（水） 9：20～16：50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	幼稚園、小学校の教員		
講師	ながさわ じゅん いのうえ おさむ 長澤 順、井上 修		
内容／講師	<p>現在の幼稚園教諭や小学校教諭は、以前と比べ、歌唱やピアノなどの音楽実技だけではなく、音楽理論などの知的理解が求められてきています。複雑な楽典の学習方法を見直し、どのように伝えれば子どもに伝わりやすいかを考察します。また、「学習」としての音楽に「遊び」の要素を加えることで、より楽しい音楽活動や音楽の授業の展開方法を探ります。/長澤 順</p> <p>歌うことは子ども達のイメージを膨らませ、さまざまな音楽的要素を捉える上で普遍的なものです。綺麗に無理なく歌うためにどのようにしたら良いかを考えます。またリズム感覚を養うことは歌や合奏などの音楽活動のみならず、子ども達の成長においてとても大切なことです。実際に楽器を用いてリズム演奏など行いながら、楽器のルーツにも触れることで、楽器演奏に対する理解も深めます。/井上 修</p>		

### 【選択講習③】

青年の社会的自立と主権者教育（6時間）			
<p>青年期は子どもが大人に向かって大きく脱皮する時期である。ところが、現代では様々な理由から大人になりきれない者が増えてきている。その一方で、選挙権の行使が18歳に引き下げられ、青年の社会参加の低年齢化が進んだ。本講習では、青年期の歴史的展開と現代的諸問題、主権者としての役割と意義、学校における主権者教育の位置づけと課題などを概説したうえで、消費者問題等現代的諸問題を題材にしてワークショップを行う。</p>			
講習日時	平成29年8月2日（水） 9:20～16:50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	中学校、高等学校、特別支援学校の教員		
講師	<small>こばやし ちえこ きむら なおと</small> 小林 千枝子、木村 直人		
内容/講師	<p>午前の部                      〈若者〉と〈青年〉の歴史／小林 千枝子・木村 直人                      高度成長期以後の〈青年〉の生き方の変化と現代的課題／小林 千枝子・木村 直人</p> <p>午後の部                      18歳選挙権の成立と学校における主権者教育／木村 直人・小林 千枝子                      演習／木村 直人・小林 千枝子</p> <p>午前中は、日本における青年期のあり方を〈若者〉や〈娘〉として一人前の村人になることが課題であった時代にまでさかのぼって、今日的な青年期のあり方や学校教育の果たす役割を、講義を通して考えていきます。                      午後は、18歳選挙権の成立が意味するものや現代の学校教育がこの事態にどう対応しており、どのようなことが課題となるのかを、消費者問題や環境問題、税金・年金問題等も含めて、講義と演習を通して考えていきます。</p>		

### 【選択講習④】

学校組織の「社会的責任」のあり方と実践方策（6時間）			
<p>2010年秋に「社会的責任に関する国際規格」（ISO26000）が発行されて以降、企業だけでなく学校や行政、NPOなど、あらゆる組織体において自らが社会の中で積極的に取り組むべき活動内容について議論・模索が続いている。本講習では、昨今の企業や組織の「社会的責任」をめぐる一連の動きを解説した後、「地域と学校の連携に基づく教育実践」を例に取り上げて、学校組織の「社会的責任」とそれを踏まえた教科指導や生徒指導のあり方について考察する。</p>			
講習日時	平成29年8月3日（木） 9:20～16:50		
定員	60名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員		
講師	<small>たけい こうすけ まえばし あきら すがや みさと</small> 武井 孝介、前橋 明朗、菅谷 美沙都		
内容/講師	<p>&lt;理論編&gt;                      組織の「社会的責任(SR)」は近年、企業を中心にその重要性が広く認識されており、すでに多くの企業において様々な実践的取り組みがなされています。一方で、学校を含む企業以外の組織では、「社会的責任」に関する議論はまだ十分とは言えないのが実情です。講習の前半では、まず企業を含むあらゆる組織に「社会的責任」が求められるようになっていくことの背景や要因について整理・分析した後、2010年11月に国際標準化機構が発行した「ISO26000(組織の社会的責任に関する国際規格)」の内容を検討しながら、学校組織における「社会的責任」のあり方を考えていきます。／武井 孝介</p> <p>&lt;実践編&gt;                      生徒数減少に伴う部活動の廃部・休部、指導者不足、勝利至上主義に偏向した運営等、近年、学校運動部活動において解決すべき多くの諸問題が指摘されています。このような学校運動部活動をめぐる議論は、学校のみでの運営に対する限界が認識され始め、学校外（地域社会）との関係構築へと傾斜しつつあります。部活動という学校教育の場において、地域住民の協力を引き出し、学校と地域双方が豊かになるためにはどうしたらよいのでしょうか。講習の中盤では、学校と地域が連携して活動を展開している事例を取り上げ、学校と地域社会の繋がりや地域スポーツ振興における学校の役割等を検討します。／菅谷 美沙都</p> <p>講習の後半では、地域における教育実践は、学生（翻って教員）にどのような変化をもたらすか、について考察します。まず、本学学生がこれまで長期にわたり取り組んできた2つの地域活動を事例として、地域活動参加への現実的なきっかけや地域の現状と課題の抽出、課題解決するための方策立案等について整理・検討します。次いで、当該活動に寄せられた外部からの客観的評価を基に、参加学生にみられた変化（資質の引き出しや種々能力の向上など）を具体的に示します。そして、地域と学校の連携に基づく教育の在り方について展望を開きたいと思います。／前橋 明朗</p>		

## 【選択講習⑤】

学校組織におけるスポーツの有効な活用方策（6時間）			
<p>講義やグループワークを通じて、学校教育におけるスポーツの有効な活用方法を学習します。学習指導要領において、体育に関する指導は「学校の教育活動全体を通じて適切に行う」と記されているように、体育・スポーツに関連する活動は、様々な教育場で活用可能です。この講習では、社会的包摂やキャリア教育、生涯学習など、学校が抱える様々な教育上の課題に着目し、その課題解決に向けた方策をスポーツという新たな切り口から考察します。</p>			
講習日時	平成29年8月3日（木） 9：20～16：50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員		
講師	関根 正敏、小山 さなえ		
内容／講師	<p>学習指導要領には、「学校における体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする」と記されていますが、果たして、そうした体育・スポーツに関する取り組みは、いつ、どこで、どのように実施し、どのような教育成果をあげることを目指せば良いのでしょうか。本講習では、こうした問いについて考察するとともに、社会的包摂やキャリア教育、生涯学習など、学校が抱える様々な教育上の課題に着目し、その解決に結びつくスポーツの可能性について理解を深めます。／関根正敏</p> <p>プロスポーツチームが社会貢献を実施する機運が高まりつつある現在、実際の学校現場においては、卓越した技能と豊富な経験を有するプロスポーツの人材を「生きた教材」として活用する機会が増えてきました。この講義では、栃木県におけるプロスポーツチームの社会貢献活動への取組状況についてレクチャーを行い、それを学校教育の現場に活かすためのポイントについて学習します。／小山さなえ</p>		

## 【選択講習⑥】

発達障害のある児童・生徒への支援の具体的な方法 —学校でのアセスメントと対応を学ぶ—（6時間）			
<p>本講習では、発達障害のある児童・生徒が幼稚園や学校場で示すさまざまな問題について、それが生じるメカニズムを個人の特性から理解し、いかに対応するかを検討します。具体的には、①幼稚園や学校場面における困難さや困り感を疑似体験し、アセスメントと支援方法に関して事例を通して考察し、②行動問題に対するアセスメントおよび予防、対応方法について事例を交えながら考察します。</p>			
講習日時	平成29年8月4日（金） 9：20～16：50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員		
講師	野村 勝彦、高浜 浩二		
内容／講師	<p>特別支援教育からインクルーシブ教育への展開する中で、さまざまな特性や困り感をもった児童・生徒、ひとりひとりにあった指導が求められてきています。</p> <p>本講座では以下の内容について学んでいただきます。</p> <p>①発達障害のある子どもたちが感じている「様々な困難さや困り感」とは、どんな状態なのか、学習における疑似体験を通して感じていただきます。これらの困難さや困り感を学校現場でどうすれば減らすことができるのか？「合理的配慮」というキーワードからこれらの工夫や支援方法について小集団で討議し、アセスメント等の活用について理解を深めていきます。／野村 勝彦</p> <p>②さまざまな行動問題を呈する児童・生徒について、応用行動分析学（ABA）の観点から、「なぜ、そのような問題が起こるのか」をアセスメントする方法について学びます。また、アセスメントに基づいた予防、対応方法について演習形式で学んでいくことを目標としています。／高浜 浩二</p>		



## 【選択講習⑦】

### 学校教育における防災・減災意識の向上と取組み（6時間）

東日本大震災や昨年9月に発生した「関東・東北豪雨」による被害など、災害に対する社会の危機意識が広がっている。そのような状況の下、教育及び地域社会の拠点としての学校における防災教育・安全教育、災害時の避難所の役割などへの期待が高まっている。しかし、多くの学校の現場では、これらの問題に対する備えができておらず、教職員は不安を感じている。本講習は、こうした不安に応えるため、地域の安全と教育の役割、災害の危険性と予知、発生災害への対応、避難所設営などを机上訓練により学ぶものである。

講習日時	平成29年8月4日（金） 9：20～16：50		
定員	50名（最少遂行人数10名）	受講料	6,000円
対象	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員		
講師	<small>やました ゆうすけ いなば しげる とみざわ ひろみ</small> 山下 裕介、稲葉 茂、富澤 廣三		
内容／講師	1. リスクマネジメントとリスクコミュニケーション —地域共同体の防災・減災活動—／山下 裕介 2. 学校安全と危機管理の重要性／稲葉 茂 3. 実践的防災教育における災害図上訓練演習／稲葉 茂、富澤 廣三 4. 災害時における避難所設営訓練演習／稲葉 茂、富澤 廣三		

## ■注意事項

- 選択講習については養護教諭・栄養教諭は対象となりませんのでご注意ください。
- 受付時間は、いずれの講習も9:00～9:20となります。
- 各講習についての詳細内容（時間割等）は、本学ホームページにてご案内しております。
- 受講者は、講習にあたっての事前アンケートにお答えください。
- 受講者は、講習修了時に事後アンケートにお答えください。

## ■申込方法

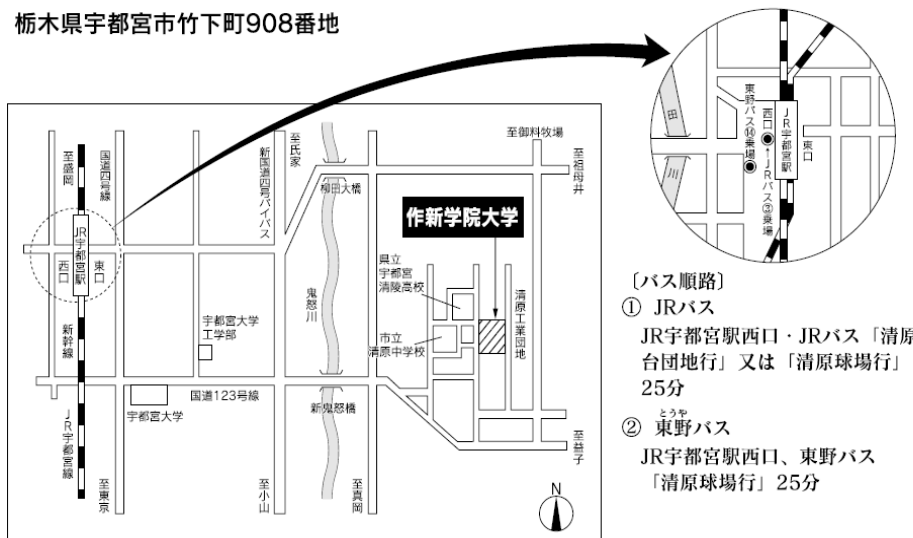
本学ホームページにてご案内しております。「教員免許状更新講習」のバナー（画面右下）をクリックしてご覧ください。

## ■交通のご案内

- ・タクシーを利用する場合は、行き先を「竹下町・<sup>たけしたまち</sup>作新学院大学へ」と教えてください。
- ・自家用車でお越しになる場合は、構内の学生用駐車場がご利用になれます。案内に従って入構してください。

### ◎作新学院大学

栃木県宇都宮市竹下町908番地



#### 〔バス順路〕

- ① JRバス  
JR宇都宮駅西口・JRバス「清原台団地行」又は「清原球場行」25分
- ② 東野バス  
JR宇都宮駅西口、東野バス「清原球場行」25分

### JR バス時刻表 2016年7月30日乗車分から（2017年2月確認）

〔東武駅－JR 宇都宮駅－大学〕			〔大学－JR 宇都宮駅－東武駅〕		
	平日	土・休日		平日	土・休日
東武駅前	7:38	7:37	清陵高校	17:35	17:38
JR 宇都宮駅	7:52	7:49	JR 宇都宮駅	18:04	18:07
清陵高校	8:16	8:11	東武駅前	18:11	18:14